
福島イノベーション・コースト構想 イノベ地域来訪者受入体制構築事業
「地域の価値向上に向けたブラッシュアップ事業の実施」
富岡町・大熊町まちづくりアイデアソンイベント事業報告

2025年 2月
NPO法人コースター



(1) 団体概要

コースターにかける3つの想い

(1) コップの下に置くコースターのように、多くの人々の受け皿になれるような団体になる

(2) コースターのスペルはcostar。分解すると”co”と”star”。関わる人と『共に、星になれる』、または、『共に、輝ける』ような場をつくる

(3) コースターのスペルはcostar。意味は『共演する』。様々な人がつながっていけるような場を作る

上記の想いを元に、福島で活動する人を
増えるような場づくりを行っています

(1) 団体概要

活動の目的

福島の地において、創造的かつ持続的に自己変革していくことができる地域社会の実現を目指し、社会的課題の解決に取り組む人材の育成及びその促進のための社会的基盤整備に関する事業を行い、もって公益の増進に寄与することを目的とする。

【役員】 代表理事＝坂上英和、江川和弥 理事＝菊池遼、監事＝小林直輝

【設立】 2012年10月12日 / 法人登記 2013年3月1日

3つの主な事業

コミュニティスペース運営 (福島コトひらく)

若者の活動創出のためのコミュニティスペースを運営。任意団体で2008年から運営してきた「コミュニティBOXぴーなっつ」に代わり、コワーキングスペースやレンタルオフィスを備えた「福島コトひらく」を2015年にオープン。



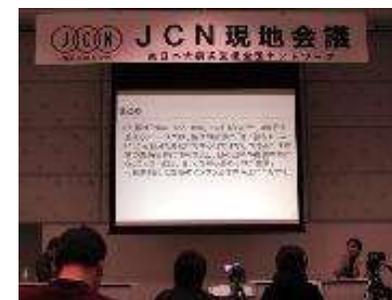
まちづくり支援

若者が地域に入り、住民と一緒に課題解決や地域おこし、復興活動に取り組む活動をコーディネート。現在では、双葉郡でのキッチンカーによるマルシェイベントや県内の復興公営住宅での交流会などを企画。

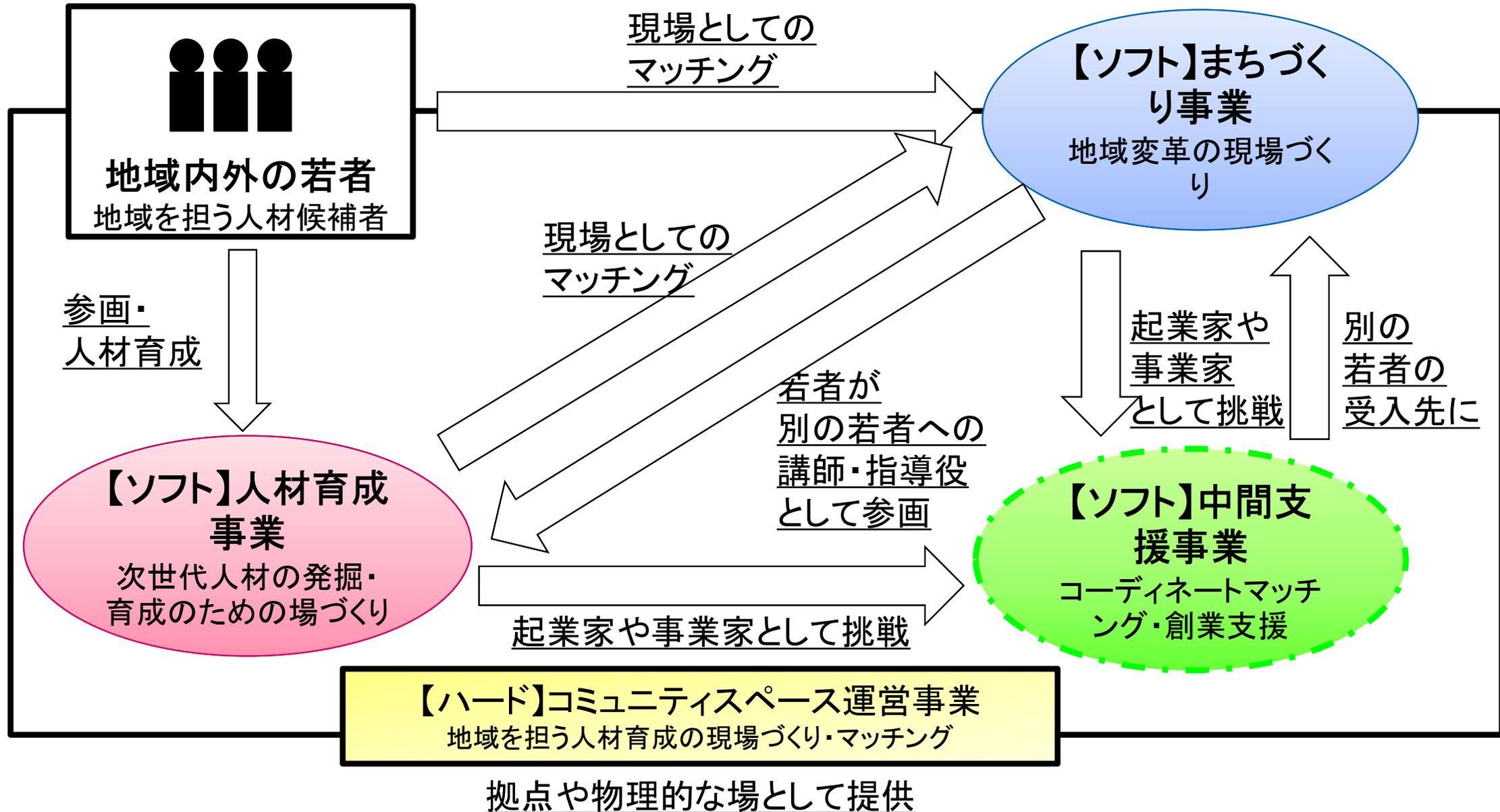


中間支援、人材育成

他のNPOや市民活動の基盤強化や資金調達など中間支援も相談に応じて対応。勉強会の開催、市民活動や復興に関する政策提言も実施。講演や講師も年に数件程度受けている。



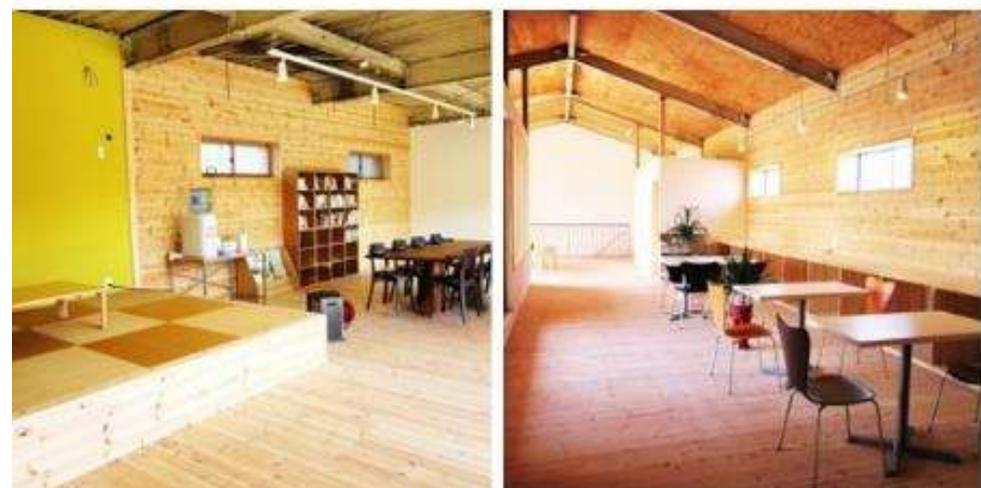
事業の概念



コミュニティスペース運営事業

■概要

- 延べ600平米の倉庫をリノベーションを行い、複合型コミュニケーションスペース「福島コトひらく」を設置。
- 24時間利用可能なレンタルオフィス、3Dプリンター・スキャナー等のアイデアを即時に形にできる工房スペース、多人数でのミーティングやイベントが行える多目的会議室等を備えた複合施設を運営
- 現在、レンタルオフィス、コワーキングスペース、イベント利用者は月500名程度の利用がある。



コミュニティスペース運営事業



まちづくり支援事業 富岡町まちなかマーケット

富岡町のまちなかの空き地を活用して、戻ってきた町民×町外の町民×復興従事者がふらっと交流できる場と双葉郡でも商売ができるという可能性を感じてもらうためのキッチンカーのイベントを開催。普段食べられないグルメを堪能しながら交流することために実施。2023年3月までに4回開催し、7000人以上が来場し、毎回15団体が出店している。



まちづくり支援 福島県内の復興公営住宅での被災者支援

■住民による大学生へのワークショップ



■餅つきによる五感を刺激する交流会



■住民とともに復興公営住宅の清掃



■清掃後の住民宅での茶和会



■団地合同の夏祭りイベントの実施



■団地合同のオンライン夜の森の桜鑑賞会



人材育成事業

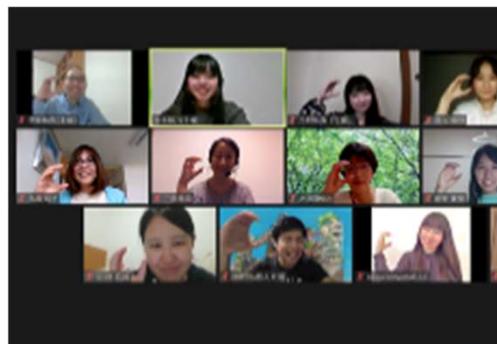
○大学生向けインターンシップコーディネート支援(2016年～)

■概要

■ 中通り・浜通りの企業・NPOに対して、大学生が1か月間、地域や社会課題について企業と一緒に解決策を考え実行する実践型インターンシップのコーディネートを実施。2020年度までにのべ60社100名以上の大学生のマッチングを行う

■ 具体的に実施したプロジェクトとしては

- ・コワーキングスペースを運営する団体での利用者の満足度調査・イベントの企画
- ・ゲストハウスでのワーケーション企画の実施
- ・郡山市内の福祉事業者のインタビューおよびポータルサイトのコンテンツ拡充
- ・道の駅での地域の食材を使った新商品開発など



(2) 取組概要・目的 事業目的

(1) 事業目的

事業全体の目的として、イノベ地域にてイノベ構想を推進する若手人材の育成を目的とする。その中でも、今年度は 1(3)で記述した構想の中で第1段階である「イノベ地域に赴き、現地の人との交流しながら、協働体験を行う」に取り組む。

1 (2) で記述した通り、若者は自分が成長できる環境、自分が応援したいものにコミットするという特徴から、まずは、イノベ地域で活動を体験しながら、その可能性を感じてもらわなければ、就職先や副業先として、この地域を選ばない。また、観光客のような形で愛着を持ったとしても、主体的に取り組む場がなければ、一過性の交流人口として終わってしまうことも危惧される。

そのため、地域との交流を図りながらも、今後も関わる方法を考える場を作る仕組みを提供することで、事業終了後も訪問するきっかけづくりを図る。

(2) 事業概要

(1) の目的を図るために、

- ・イノベ地域の実態・状況を地元住民や地域で活動する企業・団体と交流しながら学ぶ
- ・実際に学んだ情報を元に自分が関わる方法を考え、そのための試作品をつくる

という要素が含まれた合宿型のアイデアワークショップイベントを実施し、イベント実施後、そのアイデアを実現するための計画づくりをメンターと共にブラッシュアップし、それをイノベ地域で報告・発表するまでの一連のプログラムを提供する。

(2) 取組概要・目的 事業目的

福島県の被災地において

【被災地で活動する担い手不足】

【特に若者やクリエイティブ人材が不足】

今回は、6テーマのうち、【廃炉】と【農林水産業】をテーマに、関係人口から、プレイヤーを増やすきっかけづくりを行う。

実施内容

1. 事前オンライン勉強会(3回)
2. 富岡町・大熊町まちづくりアイデアソン
大学生向け・社会人フリーランス向けにそれぞれ1回実施。

プログラム内容

- ①被災地理解を深めるためのツアー・プレーヤーとの交流会
- ②被災地での活動アイデアを考えるアイデアソンの実施

3. オンライン勉強会・個別メンタリング会(それぞれ10回)

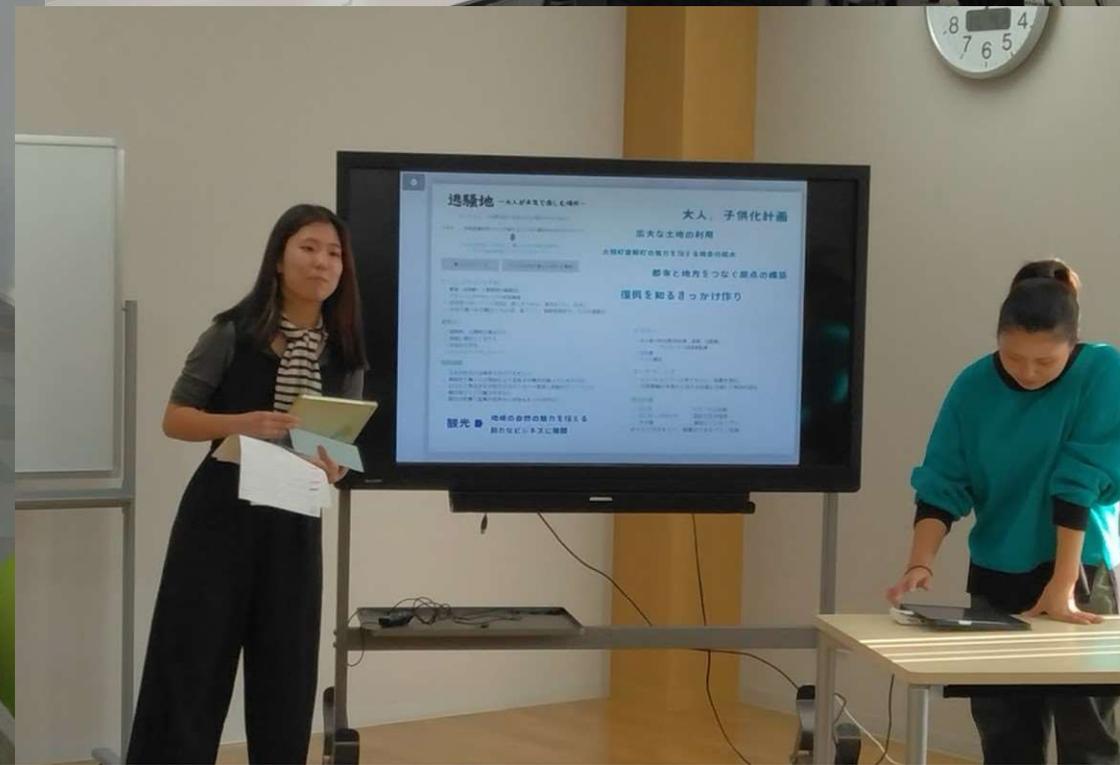
4. 上記を通して、再度訪問してもらい、次年度以降、実施したいアイデアを発表する報告会を実施

ツアー当日のスケジュール

行程案	1日目	2日目	3日目
8:30		ホテル蓬人館 学生バスピックアップ	
9:00		ホテル双葉の杜 & アルム双葉 学生ピックアップ	富岡ホテルから学生をピックアップ トータルサポートセンター富岡に移動
9:30		東日本大震災・原子力災害伝承館 視察	ワークショップ
11:00		道の駅 浪江 昼食休憩	↓
12:00		↓	バスでさくらモール移動 昼食購入後、トータルサポートセンター富岡
12:30		道の駅 浪江 出発	↓
13:00	集合@富岡駅 富岡町内をバスで散策	大熊キウイ再生クラブ 第一圃場・大熊インキュベーションセンター・KUMA・PREの視察	ワークショップ
13:30	学びの森 到着 オリエンテーション	↓	発表
14:00	↓	大熊キウイ再生クラブ 出発、学びの森着 アイデアワークショップ	↓
15:00	JAEA中井氏講演	↓	↓
16:00	経産省木野氏講演	↓	終了
17:00	弘前大学赤田先生講演	ホテルで夕食	完全撤収
18:30	住民との交流会	夕食	
21:00	会場撤収 & ホテルに移動	会場撤収 & ホテルに移動	

富岡町生涯学習課・大熊学習課と連携し、視察先・ゲスト講師・
メンターを選択・決定し、実施





(3) 取組結果 参加者の属性

■主な参加学生の所属大学

・東北大学、京都大学、福岡大学、法政大学、龍谷大学、沖縄工業高等専門学校、京都外国語大学、筑波大学、名古屋大学、宇都宮大学、下関市立大学、早稲田大学、山形大学、慶應義塾大学、広島修道大学、明治大学、神奈川大学、愛媛大学、大東文化大学、大阪芸術大学、東京大学、東洋大学、横浜市立大学、名古屋市立大学、慶應義塾大学、立教大学、上智大学、立命館大学 等

■参加フリーランス属性：デザイナー、カメラマン、ライター、アートディレクター 等

■参加・連携自治体、企業

・富岡町生涯学習課、産業振興課、大熊町生涯学習課、富岡町商工会
・ビジネスゲートウェイ株式会社・株式会社LIFE AI、株式会社Oriai、OWB株式会社、AIBOD株式会社、福島大学未来デザインセンター、株式会社ReFruits、Ichido株式会社等

(3) 取組結果

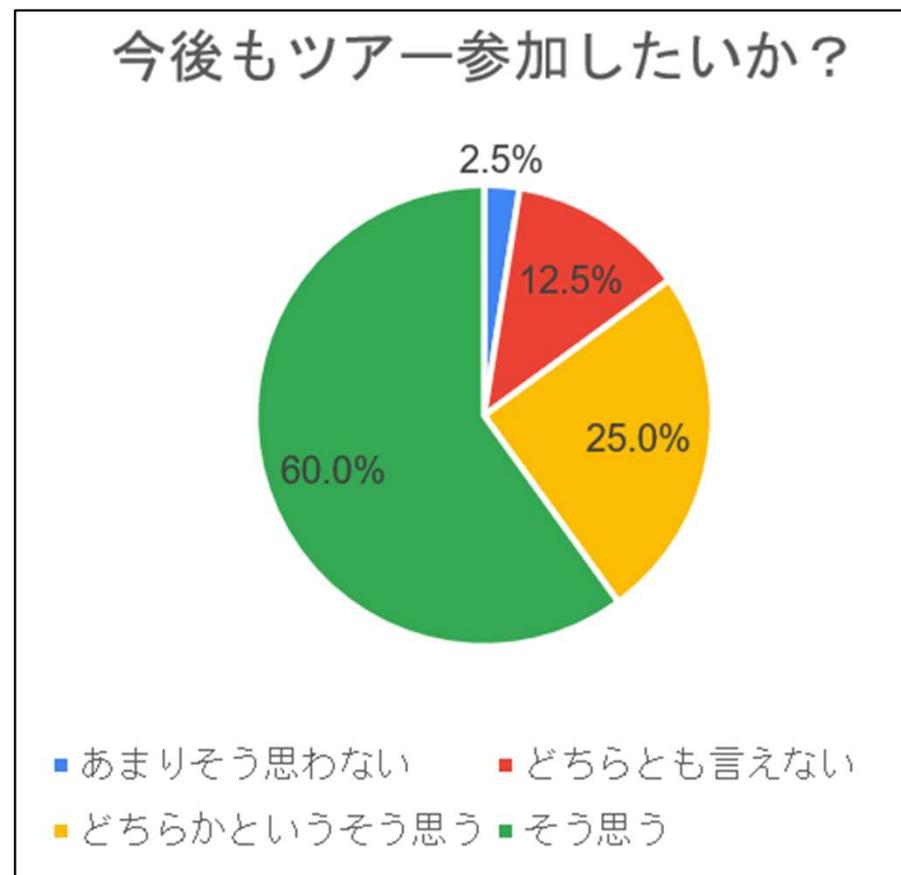
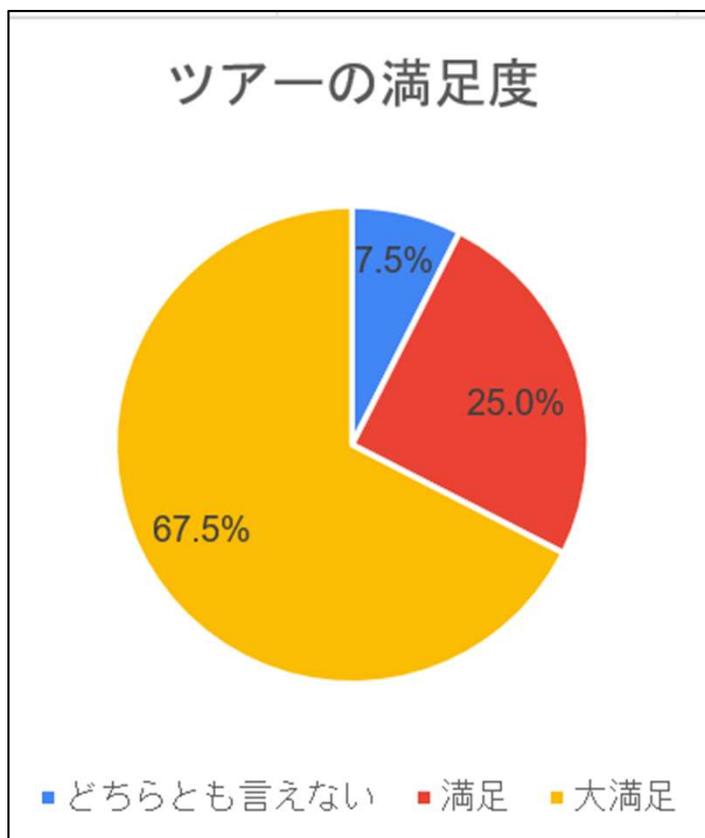
参加者から発表されたアイデア(一部抜粋)

- ・農家のデザイン面での支援・クリエイターの仲介
- ・イノベ地域の農産物の学食・東京でのメニュー開発販売
- ・イノベ地域での花農家と連携したざる菊やサカキの栽培・提供によるコミュニティの掲載
- ・イノベ地域のプレーヤーへのポータルサイトなどの広報ツールの開発提案
- ・イノベ地域での酪農農家の視察イベントの開催・共同プロジェクトの提案
- ・イノベ地域での廃炉情報や活動するプレーヤー、観光地域を紹介する観光サイト・アプリの開発
- ・イノベ地域でのアートイベントの企画

(3) 取組結果 事業目標・結果

項目	効果評価軸	目標数値	申込者数	参加者数
関係人口・交流人口の拡大	プログラム参加学生数	30名	39名	33名
	プログラム参加フリーランス数	20名	17名 (うちメンター2名)	15名 (うちメンター2名)
	報告会参加数	30名	-	28名 (地元プレーヤー含む)
	うち報告会でのアイデア提案	10プロジェクト	-	6プロジェクト
	プログラム実施後、再度訪問・福島に関わるプロジェクトを行う参加者数	-	-	21名 (43.7%)
地域の価値向上	参加するイノベ地域の自治体・企業・団体数	5団体	-	23名

(4) 効果検証 アンケート結果



ツアーの満足度は、92.5%。今後、福島県と関わりたいという参加者は85%であり、高い満足度と関係人口につながる可能性が見いだせた。

(4) 効果検証

参加者の声(アンケートから一部抜粋)

- ・様々な価値観を持つ人と交流することで、共通点や相違点を見つけて興味がわく、というプロセスを体験できました。
- ・全国の大学生が集結し、復興という一つのテーマに対して話し合いができたこと。
- ・この地域でのスモールビジネスの多さ
- ・原発が起こってしまったプロセスやその仕組みについて触れることができたこと
- ・事故があったからこそ、色々な人がいろいろな夢や目標に向かって進んでいっているまちだった。来る前は正直、震災で沈んでしまっているまちだと思ったので、すごいわくわくがたくさんあって素敵でした。
- ・たくさんありますが、特に漁業関係の方から、処理水が大丈夫なのはわかったけど、消費者を納得させてくれという声があったというお話がすごく印象に残っています。
- ・移住者の方々のチャレンジ精神や前衛的だったこと。いちからまた町のために試行錯誤している方がたくさんいらっしゃることに。
- ・今回の皆んなのアイデアがそれぞれ活かせるのでは、と思いました。
- ・ニュースでは見ていましたが、関係者の方から直接伺った福島第一原発や廃炉に関する詳しい内容が非常に衝撃的で印象に残っています。
- ・核燃料デブリ取り出し問題、街に人を呼ぶ取り組みや新しい場所と産業作り それぞれに関わる方々のお話を聞いて、全体的に情報をもっと発信していく必要があると感じました
- ・フリーランスの方、大学生の方と交流できて刺激になった。
- ・富岡・大熊町の特産品を東京で出店がしたい。
- ・充実しすぎ...ってくらい沢山の知識を得ることができた。参加した目的である、考えたことがない視点から物事を考えて、考え方を広げたい。が達成できた。
- ・大学生はもちろん、様々な素敵な大人の方に出会いお話を聞くことができたため。また、震災や廃炉に関した事への解像度がすごく上がったため。

- ・もう少しアイデアを考える時間があっても良かったなと思った。内容を具体的に詰めたかった
- ・アイデアソンの部分でワークの全体像がわからず、何につながっているのかわからなかったところ。発表後の質疑応答の時間が十分になかったこと

(4) 効果検証 考察

評価点

- ・参加者の満足度が高かったこと
→ツアー1日目の時点で、次回も実施してほしいという声多数あがった
- ・、その後、本県に関わる参加者の割合が4割程度いたこと
→本県への再度訪問、インターンシップ・アルバイトとしての参加、イノベ地域のプレイヤーへの事業提案、への参加
- ・イノベ地域のプレイヤーで今回の参加者との連携を模索したいという声があがったこと

課題点

- ・満足度が高い半面、ツアーのタイムテーブルを詰め込みすぎてしまった部分があり、そうした部分での課題があった
- ・当事者意識があるアイデアが少なく、今後につながりづらいアイデアも見受けられた
→特に大学生については、自由にアイデアを募るのではなく、イノベ地域のプレイヤーからテーマをもう少し具体的に出してもらい、その解決策を提案するプログラムの方がよいと感じた
- ・今後のプログラムの参加については、もう少し参加してほしいと思っていたが、ツアーの参加で終わってしまった参加者も多くいたこと
→参加費を全て補助したことから“ただの観光客・交流人口”で終わってしまっている
→アイデアのブラッシュアップで7割、今後の本県との関わりで5割以上を目指したい。



(5) 今後に向けて 今後の事業計画

イノベ地域のイノベ構想の推進を担う若手人材の育成モデル

第1段階

イノベ地域に赴き、現地の人との交流しながら、協働体験を行う

・イノベ地域に訪問し、復興の現場や現状を自らの目で学ぶ
 ・訪問した先で地元住民や復興に関わるプレイヤーと交流する
 ・イノベ地域で抱えている課題や今後も自分たちが関われるアイデアを同じ参加者と共に考える

・イノベ地域に訪問し、復興の現場や現状を自らの目で学ぶ
 ・訪問した先で地元住民や復興に関わるプレイヤーと交流する
 ・イノベ地域で抱えている課題や今後も自分たちが関われるアイデアを同じ参加者と共に考え、その試作品を製作する。

第2段階

中長期的に継続的にイノベ地域と関わる

・第1段階で考えたアイデアを実行に移す
 ・イノベ地域で活動する企業や団体で実践型インターンシップやボランティアなどの形で、顧客ではなくプロジェクトメンバーと一緒に活動し、成長する

・第1段階で考えたアイデアを試作品ではなく、イノベ地域で活動する企業や団体の課題解決やPRにつながるデザイン作品を提供する
 ・イノベ地域で活動する企業や団体と関係性構築し、本取組以外でも自主的に活動や契約を継続する

第3段階

イノベ地域に移住・定住しプレイヤーと活動する

・第2段階から一緒に活動したイノベ地域の企業や団体に就職、または、副業人材として活動する
 ・イノベ構想を推進するプレイヤーとして、それを推進する事業を立案・実行する

・第2段階から一緒に活動したイノベ地域の企業や団体に就職、または、副業人材として活動する
 ・イノベ構想を推進するプレイヤーとして、それを推進する事業を立案・実行する

第4段階

更なる若手人材を育成する担い手として活動する

・イノベ地域で活動する企業や団体のプレイヤーとして、更なる若手・次世代人材の育成の担い手として活動する

・イノベ地域で活動する企業や団体のプレイヤーとして、更なる若手・次世代人材の育成の担い手として活動する

大学生

若手フリーランス

(5) 今後に向けて 今後の自走化に向けて

ツアー参加について、参加者からの一部参加費徴収・企業協賛からの収益を目指す

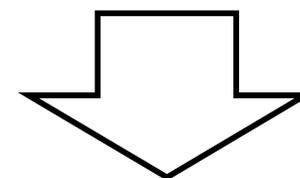
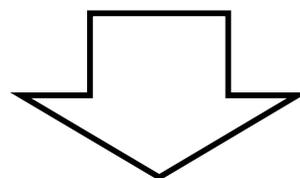
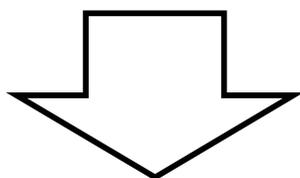
インターンシップ・副業人材の仲介・事業連携による企業収益を目指す

先述の事業モデルを元に中間支援を行い、そこでの事業形成・コンサルフィー・寄付収入で事業化を行う

費用の多くが宿泊費のため、イノベ地域のプレイヤーと協働のシェア(ゲストハウス)により費用削減を行う

参加者からの口コミ・SNSやコミュニティ化による広報費の削減を行う

イノベ地域でのコーディネーターを増やし、メンター外注費の費用削減を行う



ツアーだけでなく、元々の当団体が行っているインターンシップでの仲介や中間支援での事業化を原資に継続して、この取組を継続して実施していく。